

目 次

第 I 部	言語知識の内容を探る	1
第 1 章	形態論	2
1.1	形態論の歩き方	3
1.1.1	異形態と異音	5
1.1.2	自由形態素と拘束形態素	5
1.1.3	内容語と機能語	6
1.1.4	品 詞	7
1.1.5	接辞と派生と屈折	9
1.2	研究事例	11
1.2.1	研究事例 1 語彙的使役と統語的使役	11
1.2.2	研究事例 2 複雑述語	15
第 2 章	統語論	23
2.1	統語論の歩き方	24
2.1.1	句構造	24
2.1.2	統語的曖昧性	26
2.1.3	複文構造	27
2.1.4	島の制約	28
2.2	研究事例	29
2.2.1	研究事例 1 数量詞遊離	29

2.2.2	研究事例 2 統語的飽和	32
第 3 章	意味論	38
3.1	意味論の歩き方	39
3.1.1	意味とは?	39
3.1.2	単語レベルの意味	39
3.1.3	文レベルの意味	42
3.1.4	実験の意味論への貢献	45
3.2	研究事例	50
3.2.1	研究事例 1 文の曖昧性	50
3.2.2	研究事例 2 2 項から成る真理値について	53
第 4 章	語用論	58
4.1	語用論の歩き方	59
4.1.1	グライス (1959)	59
4.1.2	グライスの協調の原理	60
4.1.3	スケーラー・インプリカチャー (scalar implicature)	62
4.1.4	誇 張	64
4.1.5	語用論への実験の貢献	65
4.2	研究事例	66
4.2.1	研究事例 1 スケーラー・インプリカチャーの言語習得	66
4.2.2	研究事例 2 端数のない数字の用法について	68
第 5 章	音声学	74
5.1	音声と言語研究	74
5.2	音声の生理学的様相	75
5.3	子音の構音	77
5.4	母音の構音	79

8.2	研究事例	136
8.2.1	研究事例 1 かき混ぜと眼球運動	136
8.2.2	研究事例 2 語順と文脈	139
第 9 章 母語獲得		146
9.1	母語獲得の歩き方	147
9.1.1	母語獲得とそれを支える内的メカニズム	147
9.1.2	生成文法理論の母語獲得モデル	149
9.1.3	生成文法理論に基づく母語獲得研究	150
9.2	研究事例	153
9.2.1	パラメータに基づく母語獲得研究 1 複合語形成	153
9.2.2	パラメータに基づく母語獲得研究 2 前置詞残留	156
9.3	まとめ	160
第 10 章 第二言語習得		162
10.1	第二言語習得の歩き方	162
10.1.1	母語獲得と第二言語習得	163
10.1.2	転移による第二言語知識	164
10.1.3	経験以上の第二言語知識	165
10.1.4	第二言語知識と言語運用	166
10.1.5	SLA と年齢の影響	167
10.1.6	外国語教育への示唆	167
10.2	研究事例	168
10.2.1	研究事例 1 Yusa <i>et al.</i> (2011)	168
10.2.2	研究事例 2 Inagaki (2001)	171
第 11 章 言語の神経基盤		176
11.1	言語の神経基盤の歩き方	177
11.1.1	脳の構造と機能	177

11.1.2	意味の神経基盤	179
11.1.3	統語の神経基盤	182
11.1.4	音韻・プロソディの神経基盤	184
11.2	研究事例	186
11.2.1	研究事例 1 「転位」の特性にかかわる神経活動	186
11.2.2	研究事例 2 単語復唱課題時における脳の血流変化	189
第 12 章 コーパス		195
12.1	コーパスの歩き方	195
12.1.1	コーパスとは	195
12.1.2	さまざまなコーパスとツール	197
12.1.3	日本語のコーパス	199
12.2	コーパスの使用例	201
12.2.1	「やはり」	201
12.2.2	「卑下」	204
第 III 部 統計分析の手法に親しむ		209
第 13 章 統計の考え方		210
13.1	統計的検定の流れを理解する	211
13.1.1	帰無仮説を立てる	211
13.1.2	有意水準を決める	213
13.1.3	検定統計量を計算する	213
13.1.4	統計量が有意水準より小さい確率か大きい確率かを確かめる	214
13.1.5	最終的な判断を下す	216
13.2	変数 (尺度) の種類	216
第 14 章 2 つの平均の比較 (t 検定)		220
14.1	対応のない場合の t 検定	221

14.1.1	帰無仮説を立てる	222
14.1.2	検定統計量を計算する	222
14.1.3	結果を報告する	229
14.2	対応のある場合の t 検定	230
14.2.1	帰無仮説を立てる	230
14.2.2	検定統計量を計算する	230
14.2.3	結果を報告する	234
14.3	まとめ	235

第 15 章 3 つ以上の平均の比較（一元配置の分散分析） 237

15.1	一元配置の繰り返しのない分散分析（被験者間の分散分析）	238
15.1.1	帰無仮説を立てる	239
15.1.2	検定統計量を計算する	239
15.1.3	結果を報告する	247
15.2	一元配置の繰り返しのある分散分析（被験者内の分散分析，反復測定による分散分析）	247
15.2.1	帰無仮説を立てる	247
15.2.2	検定統計量を計算する	248
15.2.3	結果を報告する	256
15.3	まとめ	257

第 16 章 3 つ以上の平均の比較（二元配置の分散分析） 259

16.1	二元配置の繰り返しのない分散分析（被験者間の分散分析）	259
16.1.1	帰無仮説を立てる	260
16.1.2	検定統計量を計算する	262
16.1.3	結果を報告する	270
16.2	二元配置の繰り返しのある分散分析（被験者内の分散分析）	271
16.2.1	帰無仮説を立てる	271
16.2.2	検定統計量を計算する	271

16.2.3	結果を報告する	276
16.3	まとめ	277
第 17 章	カイ 2 乗 (χ^2) 検定	280
17.1	適合度 (一様性) の検定	281
17.1.1	帰無仮説を立てる	282
17.1.2	検定統計量を計算する	282
17.1.3	結果を報告する	289
17.2	独立性の検定 (test of independence).	289
17.2.1	帰無仮説を立てる	289
17.2.2	検定統計量を計算する	290
17.2.3	結果を報告する	295
17.3	まとめ	295
	練習問題解答への手引き	297
	参考文献	315
	索引	329